

いわて復興だより



平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます。この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

がんばろう!岩手 つながろう!岩手 第 163 号 令和 2 年 7 月号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

「いわての観光リスタートセレモニー」開催

令和 2 年 6 月 19 日（金）、岩手県の観光業を盛り上げるため「いわての観光リスタートセレモニー」が開催されました。

このセレモニーは、県などで構成するいわて観光キャンペーン推進協議会が開催したもので、県内観光業関係者や県・市町村などから約 70 人が参加しました。

協議会では、「新しい生活様式」の推進を盛り込んだ「いわての新しい観光宣言」を行い、今後の方針として、「感染症対策に取り組む」、「変わらない良さで、新しい取組を進める」、「いわての良さを県内・県外の皆さんと共有する」の 3 つを柱に、新型コロナウイルス感染症対策と社会経済活動の両立を図りながら、オール岩手で観光事業を進めていきます。



■問い合わせ：

岩手県商工労働観光部観光・プロモーション室

☎ 019-629-5574



「いわての新しい観光宣言」の様子



参加者によるがんばろう三唱の様子

「#iiiwate “いい岩手” 見つけて教えてキャンペーン 2020」実施

岩手県では、昨年度に引き続き、令和 2 年 7 月 7 日（火）から令和 3 年 1 月 31 日（日）まで、県の魅力や復興の状況を発信し、岩手を盛り上げる「#iiiwate “いい岩手” 見つけて教えてキャンペーン 2020」を Twitter と Instagram で実施しています。

また、キャンペーンの一環として、写真投稿サイト「東京カメラ部」と連携し、“岩手のいいところ「#iiiwate “いい岩手”」をテーマとしたフォトコンテストを開催しています。

岩手県で感じることができる様々な魅力と、東日本大震災津波からの復興が進む三陸の姿について、「岩手の春」、「岩手の夏」、「三陸復興」の 3 つの部門に分けて募集します。このうち「三陸復興」部門は、東日本大震災津波から 10 年目を迎え、家族や友人、お世話になった方への感謝のメッセージを募集しておりますので、作品に添えてご応募ください。

このフォトコンテストは、7 月 7 日（火）から 9 月 30 日（水）までの前期と 10 月 1 日（木）から令和 3 年 1 月 31 日（日）までの後期で実施されます。また、各期において、入賞者には「#iiiwate オリジナルデザイン QUO カード」などの素敵な商品をプレゼントします。

#iiiwate “いい岩手” 見つけて教えてキャンペーン 2020 の詳細はこちら



#iiiwate いい岩手フォトコンテストの詳細はこちら



■問い合わせ：

岩手県政策企画部広聴広報課 ☎ 019-629-5283



#iiiwate
いい岩手キャンペーン

いい岩手キャンペーン
チラシ

いわて復興応援団(員)大募集中!

知って、買って、食べて、行って応援!

登録
無料

首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員（個人）と応援団（法人及び団体）の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取組や観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

いわて復興応援団

検索

三陸沿岸道路 「宮古中央 JCT ～田老真崎海岸 IC」 開通

宮古市

MIYAKO

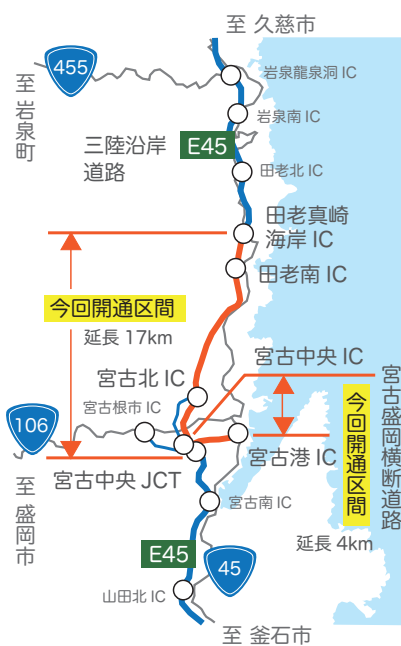
令和2年7月12日（日）、国土交通省が整備を進めている三陸沿岸道路の宮古中央 JCT ～田老真崎海岸 IC 間（延長 17km）が、またそれに接続する宮古盛岡横断道路の宮古港 IC ～宮古中央 IC 間（延長 4 km）が開通しました。

開通により県内の三陸沿岸道路は田野畑村以南が全て開通し、気仙沼市唐桑 IC までの約 139km が自動車専用道路で結ばれます。また、宮古盛岡横断道路は、三陸沿岸道路とつながるとともに、宮古港に直結します。

これらにより、国道 45 号、国道 106 号の混雑緩和が図られるとともに、宮古港を活用した観光や物流の活性化、津波浸水域を回避したルートの形成による災害に強い道路ネットワークの構築など、地域の産業振興や防災機能の強化が図られます。



開通式典の様子



産業復興支援メニュー (令和2年度第1版) 発行

～東日本大震災津波で被災
された事業者のみなさまへ～

岩手県では、東日本大震災津波で被災された事業者の皆様が利用できる主な復興支援制度を紹介する「産業復興支援メニュー」の令和2年度第1版を令和2年7月15日（水）に発行しました。

この産業復興支援メニューは、施設・設備の復旧・修繕や、経営の再建など、事業者の皆様の復興等に利用可能な支援制度について、「農林水産業版」と「商工業版」に分けて一覧化したものです。

事業の再建や拡大、雇用の維持・拡大などに役立つ制度を検索するインデックスとして、ぜひご活用ください。

産業復興支援メニューは
県ホームページからご覧
ください。



■問い合わせ：
岩手県復興局まちづくり・産業再生課
☎ 019-629-6931

つ な み

世界へ、未来へ、「いわて TSUNAMI メモリアル」

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」
(いわて TSUNAMI (つなみ) メモリアル) を紹介します。

令和2年6月18日（木）、東日本大震災津波伝承館で、大船渡市立赤崎小学校4年生（26名）による復興教育を目的とした校外学習が行われました。

新型コロナウイルス感染症への対応に伴う臨時休館を経て、今年度初めて行われた校外学習では、児童らがグループに分かれて館内を回り、震災当時の映像を映すシアターや、被災した消防車などの展示を真剣な表情で見学しました。また、解説員の説明に対して、大勢の児童が手を挙げて質問をする様子も見られ、伝承館に子供たちの元気な声が戻ってきました。

伝承館では、現在、小学生向けの学習教材「震災津波

学習ノート」を作成し、震災を知らない子供たちに津波の恐ろしさや避難の大切さを分かりやすく伝える工夫をしています。これらの教材も活用し、次世代を担う子供たちが、震災津波について正しく学び、防災意識を高める「学びの場」として、復興教育に取り組んでいきます。

■問い合わせ：
東日本大震災津波伝承館
☎ 0192-47-4455



東日本大震災津波伝承館の感染症対策

- ① 供用機器類の一部利用停止
- ② シアターの座席数縮小
- ③ 館内清掃及び換気の徹底
- ④ 手指消毒及びマスク着用等のお願い
- ⑤ 赤外線サーモグラフィや非接触型体温計による来館者の体温測定



震災津波学習ノート



東日本大震災津波の被害を受けた沿岸地域の郷土芸能の復興の姿と支援への感謝をお伝えしていきます。今回は、野田村の郷土芸能「なもみ太鼓の会」について、泉澤 弘さんに伺いました。



なもみ太鼓の会
会長
泉澤 弘さん

以前は野田村にも「神楽」などの郷土芸能がありましたが、伝承する人もいなくなり、郷土芸能自体がなくなりそうな状況でした。

その中で、村に根付いた郷土芸能を作りたいとの思いから、若者が中心となり、約2年間の練習・準備を経て、昭和63年4月に「なもみ太

鼓の会」を結成したのが始まりです。

「なもみ太鼓の会」の“なもみ”とは、秋田県の“なまはげ”のように、小正月に鬼の面をかぶり、ミノをまとい、包丁などを持った仮装で家々を回り、五穀豊穡や無病息災、子どもの健やかな成長を願う岩手県沿岸北部に伝わる風習から名付けたものです。

震災当時、太鼓や衣装、道具などは野田村役場の隣にある体育館に保管していましたが、震災の津波により体育館は床上まで浸水し、太鼓以外の衣装や道具のほか、運搬車も被災し使えなくなりました。

震災後は民間団体からの支援を受け、衣装の購入や太

鼓の修理などを行いながら、練習の場である体育館のアリーナには支援物資などが山積み状態の中、狭いながらも舞台上の空きスペースを利用して練習しました。

震災の年の7月には活動を再開し、8月には野田村の友好町村であり、多くの支援を頂いた北海道様似（さまに）町の「アポイの火まつり」にも参加しました。

今は10曲ほどのレパートリーをアレンジして、地元を中心に県内外の祭りやイベントなどで演目を披露しています。

人口の減少や村を離れていく若者も多い中、郷土芸能の継承を第一に、にぎわいと活力ある村づくりに寄与できればと思って活動しています。



「なもみ太鼓の会」の演奏の様子
(写真提供：なもみ太鼓の会)



子供に寄りかかるなもみ
(写真提供：岩手県観光協会)



さんりくイベント情報



令和2年度 第1回いわて復興未来塾
～沿岸報告会～

山田町

大槌町

YAMADA

OTSUCHI

参加定員
50名

■開催日 8月23日(日)

■時間・場所

▶11:00～12:10▶

山田町【復興まちづくり状況視察】(場所：陸中山田駅周辺)

▶13:30～15:00▶

大槌町【知事挨拶、事例報告3件】
(場所：文化交流センターおしゃっち)

- ① 大槌高校復興研究会による防災絵本発表
- ② オランダ島ハウスにおける山田町放課後児童クラブ・子育てサロンの紹介
- ③ 大槌川水門・小槌川水門に関する発表

▶15:10～15:40▶ 【大槌川水門・小槌川水門の現場視察】

コーディネーター

事例報告者

コメンテーター



服部真理氏
山田町体験観光
コーディネーター



大槌高校
復興研究会



佐々木美智穂氏
山田町 助産師



中谷恭右 技師
沿岸広域振興局土木部
(静岡県派遣)



神谷末生氏
(一社)おらが大槌
夢広場

■盛岡発往復シャトルバス(無料)

◀ 盛岡⇒山田⇒大槌⇒盛岡 ▶を運行(先着30名)

■問い合わせ：いわて未来づくり機構

(事務局：岩手県復興局復興推進課) ☎ 019-629-6945



夏いわてさんりく
海日和キャンペーン

岩手県沿岸広域振興局では、沿岸広域を周遊して楽しんでいただける「夏いわてさんりく海日和キャンペーン」シールラリーを開催しています。シールを集めて応募し、“どどーんと瓶ドンセット”など、沿岸地域の名産品を当てましょう！

公式HPや各地で配布のチラシ等に掲載の参加店で1,000円(税込)以上のご利用につき、シール1枚を贈呈します。シールは3種類あり、多くの種類のシールを集めて応募するとより豪華な景品が当たります。

実施期間：7月1日(水)～9月30日(水)

実施場所：沿岸広域振興局管内9市町村

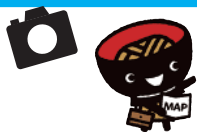


■問い合わせ：

「夏いわてさんりく海日和シールラリー」

事務局(IBC岩手放送)

☎ 019-623-3131



震災遺構「明戸海岸防潮堤」(田野畑村)は、被災当時の姿のままに保存・整備され、津波の破壊力や当時の様子を感じることができます。



三陸ジオパーク



震災遺構「明戸海岸防潮堤」

震災直後の「明戸海岸防潮堤」
(写真提供：田野畑村)

総延長 378m、高さ 9mの明戸海岸防潮堤周辺には、震災前、海岸に面して広い砂浜とクロマツの保安林が広がり、キャンプ場やマレットゴルフ場、野球場、物産販売施設などが隣接し、多くの人を訪れるレジャースポットでした。東日本大震災津波では、この防潮堤が決壊し、保安林や

各施設、周辺の民家が流失するなど大きな被害を受けました。

震災遺構「明戸海岸防潮堤」の周辺には、見学路や震災前後および決壊の瞬間の写真を使用した解説板が整備され、次世代への震災体験の伝承と住民や観光客への防災学習や観光振興に活用されています。

また、地元の住民ガイドが、遺構施設や周辺の被災エリアで「大津波語り部&ガイド」プログラムを提供しています。

■遺構施設に関する問い合わせ：

田野畑村 政策推進課 ☎ 0194-34-2111 (代表)

■「大津波語り部&ガイド」の問い合わせ：

NPO 法人体験村・たのはたネットワーク ☎ 0194-37-1211



連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介していきます。

第 108 回は、及川 武宏さんを紹介します。

PROFILE

大船渡市出身。高校卒業後、大学時代を東京、北海道で過ごした後、ワーキング・ホリデーでニュージーランドを訪れる。

震災発災後、東日本大震災復興支援財団に転職し、被災地での様々な支援活動や施策の立ち上げに携わる。平成 26 年に U ターンし、ワイン用のブドウやリンゴ栽培などを行い、平成 30 年、ワイナリーを設立する。

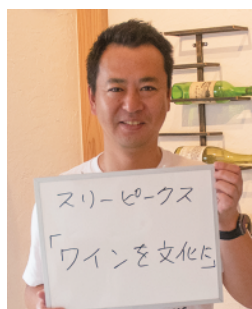
地方で継続してできる事業を

震災後、ボランティアや NPO など、復興を支援する仕事で青森県から千葉県までのほとんどの被災市町村を回った及川さんは、自分も動かないと何も変わらないと感じ、ふるさとの大船渡市に戻ることを決意します。

いわて さんりく びと

株式会社スリーピークス
代表取締役

及川 武宏さん
(おいかわ たけひろ)



スリーピークス
「ワインを文化に」

「学生の頃から、地方で持続可能な事業を成り立たせることは出来ないかと考えていました。ニュージーランドで触れたワインツーリズムやワイン造りができる環境を大船渡市に作りたくて、市内でブドウを栽培し、自社のワイナリーを設立しました。」と及川さんは語ります。

中心市街地に人を呼び込む

「ワイナリーというと、一般的にはブドウ畑の中にあるイメージですが、中心市街地に人を呼び込もうと、「大船渡キャッセン」エリアにオープンしました。近隣の宿泊施設や商店街の皆さんと協力し、今後は、ワインを中心としたイベントや、地元の食材と組み合わせたイベントも展開し、ワイン文化を通して交流人口を増やしたいと考えています。また、ほかの沿岸地域などにも拠点を作り、ワイナリーの個性を出せる人材を育てていきたいです。」と及川さんは意気込みを語っています。

岩手県の被害状況

令和 2 年 6 月 30 日現在

▶人的被害 死者(直接死)：4,674 人 行方不明者：1,112 人
死者(関連死)：469 人

▶建物被害(住家のみ、全半壊) 26,079 棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和 2 年 6 月 30 日現在

▶義援金受付状況 約 187 億 4183 万円 (97,513 件)

▶寄付金受付状況 約 200 億 9670 万円 (10,084 件)

▶いわての学び希望基金(※) 受付状況 約 100 億 9087 万円 (24,615 件)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～
約 24 万点の資料を検索・閲覧できます。



いわて震災津波アーカイブ

検索

いわて復興だより 第 163 号 令和 2 年 7 月 21 日発行
企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎ 019-629-6945
編集・印刷：シナプス